

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名		基山町立若基小学校											
1 前年度 評価結果の概要		・学力向上、健康・体づくり、業務改善・教職員の働き方改革の推進、特別支援教育の充実の項目において、目標を達成し、A評価となった。 ・本年度の重点目標については、全職員で取り組んだ。校内研究とも関連させ、目標を達成できた。 ・心の教育については、教職員の意識と児童・保護者の受け止め方との差異が生じた。「学校の対応の遅れ、一人一人の児童に寄り沿った指導が行き届いていないことがあったこと」へのご意見だと真摯に受け止め、今後も職員研修等にて一層共通理解を図り、職員一同早期発見、早期解決に向けて努力していく必要がある。											
2 学校教育目標		きたえ やりぬき まなびあう 夢にむかって共に笑顔でがんばろう											
3 本年度の重点目標		・表現活動の充実 ・心の教育（あいさつの推進、夢、郷土愛） ・特別支援教育の充実											
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者			
(1)共通評価項目													
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言				
●学力の向上	○学習内容の定着と表現力の向上	○「学習で読んだり」書いたり考えたりする力が伸びた」「条件を確認しながら自分の考えや振り返りを書くことができた」と答える児童85%以上	・児童の表現力の育成を主題にした校内研究に取り組む		A	・児童アンケートより「学習で読んだり」書いたり考えたりする力が伸びた」と答えた児童93%、「条件を確認しながら自分の考えや振り返りを書くことができた」と答えた児童86%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより「学習で読んだり」書いたり考えたりする力が伸びた」と答えた児童94%、「条件を確認しながら自分の考えや振り返りを書くことができた」と答えた児童85%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートの結果が、いずれも成果指標の85%以上を上回っているの で、十分達成でよい。	研究主任 ・学力向コーディネーター		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を85%以上	・ふれあい道徳をより充実させる ・道徳アンケートを実施する		A	・児童アンケートより「友達と仲良くできている」と答えた児童98%、「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答えた児童92%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより「友達と仲良くできている」と答えた児童98%、「良いことと悪いことを考えながら生活している」と答えた児童92%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートの結果が、いずれも成果指標の85%以上を上回っているの で、十分達成でよい。	道徳教育 ・人権・同和		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると答える教師を90%以上	・いじめアンケートにより、早期発見、早期対応に取り組む ・配慮を要する児童の情報共有と教育相談に係る研修会を実施する		B	・職員アンケートでは「いじめの防止、発見、対応取り組めている」との回答は100%だったが、保護者アンケートの「いじめの防止等に組織的に対応」についての肯定的回答は87%であった。今後、更に組織的で丁寧な対応に努める。	A	・職員アンケートでは「いじめの防止、発見、対応取り組めている」との回答は100%。保護者アンケートの「いじめの防止等に組織的に対応」についての肯定的回答は89%と中間より上昇したため、十分達成とした。	A	・職員アンケートの結果が、成果指標の90%以上を上回っており、保護者アンケートの結果も、最終で上昇していることから、十分達成でよいと思われる。	生徒指導 ・教育相談		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・授業や様々な体験活動において、振り返りを行い、自分のよさや成長を感じさせる		A	・児童アンケートより「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童は92%、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は85%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童は93%、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は89%であり、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートの結果が、いずれも成果指標の80%以上を上回っているの で、十分達成でよい。	特別活動 ・教務主任		
	○進んであいさつができる児童の育成	○「自分からあいさつができた」と答える児童90%以上	・あいさつ週間を学期に1回設定し、あいさつ運動をしたり、「あいさつ名人」を表彰したりすることにより、進んであいさつをしようとする意欲を高める		B	・児童アンケートより「自分からあいさつできた」と答えた児童は90%と、ぎりぎり目標を達成できた。今後も、あいさつ運動やあいさつ名人等の取り組みを継続していく。	C	・児童アンケートより「自分からあいさつできた」と答えた児童は88%と、目標をやや下回る。次年度は目標を見直し、取り組みを継続・発展させていきたい。	B	・児童アンケートの結果は、88%と成果指標の90%以上にやや及ばなかったが、登校中、低学年はよくあいさつをしている。そういった実態も加味して、おおむね達成でよいと思う。	生徒指導		
	●健康・体づくり	「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝」、「早起き」、「朝ご飯」の児童の定着率80%以上 ○「休み時間、元気に体を動かした」と答える児童70%	・年に2回「生活アンケート」を行うなど、自分の生活習慣を見直し、改善を促す学習活動を実施する ・保健だよりの発行で、規則正しい生活習慣の大切さを児童・家庭に伝える ・運動の効果を伝え、外遊びを奨励		A	・児童アンケートより早寝早起きができている児童は85%、朝ご飯を食べて登校している児童は97%、休み時間に体を動かしている児童は83%といずれも十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートより早寝早起きができている児童は82%、朝ご飯を食べて登校している児童は97%、休み時間に体を動かしている児童は87%といずれも十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートの結果が、「早寝早起き」82%、「朝ご飯」97%といずれも成果指標の80%以上を上回り、「体を動かす」も87%と、成果指標の70%を上回っていたので、十分達成でよい。	体育主任 ・養護教諭 ・食育	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(時間外勤務の月平均を45時間以内に作る)	・行事等の実施方法の見直し区等により効率化を図る ・通常18:15及び金曜日17:30の施設時間の徹底に努める ・定期的に衛生委員会を開き、課題の洗い出しとその解決に努める		B	・今年度4月から10月までの時間外勤務の月平均は27:41となり、月平均45時間は大きく下回った。実績は月により異なるが、4～6月及び10月は30時間台、7～9月は20時間台以下と短くなっている。今後は、時間外勤務が長い職員と、時間外勤務縮減の具体策等について協議していく。	B	・今年度4月から1月での時間外勤務の月平均を前半後半で比較すると、前半平均は25:4H、後半平均は27:4Hとなった。いずれも、月平均45Hを大きく下回ったものの、10月は時間外勤務45H以上が9人と多かった。月行事等の関係もあるが、次年度は、個人の時間外勤務時間縮減によりつながる目標や取組の検討が必要である。	B	・学校全体の月平均の時間外勤務の目標(45時間以内)は十分クリアされているが、個人によっては時間外勤務が多い点が今後の課題。個人目標を設定するなどの取り組みで実質的な時間外勤務の削減を期待し、おおむね達成とした。	教頭		
●特別支援教育	○特別支援教育の充実	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり対応できることが増えたという教師90%以上	・特別の配慮が必要な児童について校内の共通理解を深める ・特別支援教育に係る研修会の実施		A	・職員アンケートより「研修等により特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対象児童に対応できることが増えた」と答えた教員は94%と十分に目標達成できている。	A	・職員アンケートより「研修等により特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対象児童に対応できることが増えた」と答えた教員は94%と十分に目標達成できている。	A	・職員アンケートの結果が、成果指標の90%以上を上回っており、十分達成でよい。	特別支援コーディネーター ・教育相談担当		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目													
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言				
●郷土愛	○ふるさとを愛する児童の育成	○基山のよさを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童80%以上	・生活科や社会科、総合的な学習(基山学等)の中で、地域を知り、地域について考える機会を作る		C	・児童アンケートより、「基山町のよさが(低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上)言える」と答えた児童は、77%と、目標にあと少し届かなかった。今後も、様々な教育活動を通して、ふるさとのよさを感じる取り組みを継続して行っていく。	A	・児童アンケートより、「基山町のよいと思うところはどんなことか(低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上)言える」と答えた児童は、85%と、十分に目標達成できている。	A	・児童アンケートの結果は85%と成果指標の80%以上を上回っているの で、十分達成でよい。今後は、教師が基山町のよさをアピールしたり、基山町のよさに気付く場を設定するなどの取り組みを期待する。	生活・総合 ・特別活動		
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育													
5 総合評価・次年度への展望		・いずれの項目も、目標達成に向けた取り組みの成果があらわれた評価となったと考えている。 ・中でも、郷土愛については、中間評価を踏まえて取り組んだことで、成果の伸びにつながった。 ・逆に、あいさつの推進は、様々な取り組みを行ってきたが、目標の90%には、わずかに届かなかった。次年度は、目標や取り組みの見直しを検討していきたい。 ・次年度は、今年度の学校評価やアンケート結果をもとに、教育活動の更なる充実につながるような成果指標の設定や具体的取組の改善を図っていきたい。											